

研究結果報告書

本研究は日本人の「断り」言語行為を社会言語学的に考察し、また比較文化論の見地からそれをベトナム人の場合と比較し、それぞれの特徴、類似点および相違点を明らかにする目的がある。

本研究では、データ収集の能率化の観点から談話完成テスト（以下DCT）の調査方法を用いた。200人の日本の大学生とベトナムの大学生に対しDCT調査を行い、調査結果の分析を通して日本語とベトナム語の依頼に対する断り「意味公式」およびその使用頻度を明らかにした。さらに、「断り」行為における日越ポライトネス・ストラテジーの特徴や類似・相違を見だした。DCTの場面設定は、「お金の貸し出しの依頼」、「コンピュータソフトの教えの依頼」、「資料のコピーの依頼」、「本の貸し出し依頼」など、日越社会の日常生活で遭遇しやすい依頼・断る場面を選んで、またBrown & Levinsonのポライトネス理論に基づき、「社会的距離」の親疎関係（Social Distance）、「聞き手の話し手に対する社会的権力（Power）および「行為が相手にかける負荷度」（Absolute ranking of imposition）の要素も考慮し調査の場面に取り入れた。調査対象者は与えられた状況において自分ならどのように言うかを考え、実際話すように「断り」を書き込んで談話を完成した。

本研究の結果として、下記のことを明らかにした。

1 ー 先行研究のBeebe（1990）、藤森（1994）、藤原（2004）、Meng Yun（2010）などの断り意味公式の分類を参考にして、日越文化比較観点に「依頼に対する断り」意味公式を22種類分類した。

2 ー 日本とベトナムの大学生における断り意味公式の使用頻度を比較し、それを通して使用頻度が高い断りのストラテジーを5上位の「謝罪」、「理由」、「代案」、「依頼を防ぐ」、「約束」ストラテジーを確定することができる。

3 ー 両言語において、「理由」、「代案」、「約束」など、いくつかの共通のストラテジーがある。ただ、共通だとしても、微妙な違いがある。日本人は理由を説明するとき、「用事がある…」、「私用があるので…」など、かなり曖昧な理由を言う。しかし、ベトナム人は通常詳しく理由を説明し、さらに、「おなかが痛い」や「法事がある」、「故郷へ帰らなければならない」など、個人的な理由が多い。

4 ー 日本語とベトナム語には、上記の共通のストラテジーがあるにも関わらず、それぞれの特定のポライトネス・ストラテジーも存在している。日本語では、「謝罪」、「感謝」のストラテジーが高い頻度で使われているが、ベトナム語の文化規範でこの表現が「丁寧過ぎ」だとされ、滅多に使わない。しかし、ベトナム語でよく見られる「あなたは一人で行ってください」や「自分でやってください」という断りなど、「依頼・誘いを防ぐ」という断りストラテジーが日本語で見られなく、日本の文化規範でも「失礼」だとされている。

5 ー 「依頼・断る」のコミュニケーションで日本人は「横関係」（親疎関係）を重視している。逆に、ベトナム人は断り行為をする際、「横関係」より「縦関係」（社会的権力）の方を重視している。ただ、日本人とベトナム人両国民はアジア文化圏に属してい、直接の断り行為より間接の断り行為の方がよく行い、アジア人のコミュニケーション文化の特徴を持っている。

研究成果の公表について(予定も含む)

頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名 : 「発話行為および断り発話行為に関する研究」
発表者名 : NGO HUONGLAN
会議名 : 『言語および言語学研究的諸問題』
日時 : 9月24日、午前8時から午後5時まで
場所 : ベトナム社会科学院・社会科学学院・言語学部

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「日本語における断り言語行為の研究概括」、『東北アジア研究雑誌』2012年9月号、Vol. 139、東北アジア研究所
2. 「日本語の断り言語行為の特徴：日本の大学生に対しての調査結果から」、『東北アジア研究雑誌：日越外交関係樹立40周年記念の日本研究特殊号』2013年6月、Vol. 148、東北アジア研究所
3. 博士論文「ベトナム人の断り言語行為の言語的・文化的特徴（日本語との比較）」（ベトナム社会科学院・社会科学学院・言語学部）の第2章に本研究の結果を活用した。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)